

## 協力会社と連携し、生産管理を効率化するシステムを独自開発したものづくり企業

京都府宇治市の田中精工株式会社(従業員94名、資本金4,000万円)は、自動車、電子機器等の小型精密部品を鋳造する企業である。金型の設計、製造から鋳造品の表面加工、検査等まで、外注先の協力会社と連携した一貫生産を強みとしている。

同社は、大手メーカーとの受発注を電子化して行うことに加え、協力会社との間でも受発注、工程進捗等の生産管理情報をやり取りする生産管理システムを開発し、生産性や品質の向上に取り組んでいる。

同システムは、従来から利用していた社内システムの一部を改良したもので、協力会社は、インターネットを通じてシステムを利用できる。また、システム内のデータは、公開領域の設定ができるため、協力会社は、同社以外から受注した仕事を公開せずに管理できる。

協力会社の状況やニーズは多様であり、協力会社も活用できるシステムとするためには、個別にカスタマイズし、段階的に利用できる仕組みが必要であった。システムの開発に当たって、協力会社と協議会を設立し、システムの活用が協力会社自身の生産性の向上につながることを説明するとともに、協力会社の意見や要望を積極的に取り入れた。このことで、協力会社の主体的な参加を促すことができた。

2012年には、12の協力会社が同システムを活用しており、管理業務を電子化したことで生産性が向上し、同社の粗利益率は改善している。リードタイムの短縮や協力会社での不良の発生が即時に把握できるため、販売先からの信頼が着実に高まっていると感じている。

また、同社は、2009年度に中小企業IT 経営力大賞を受賞し、その後、同システムを活用した協力会社2社も、優秀賞やIT 経営実践認定企業に選ばれた。

同社では、生産の管理業務以外にも、IT を積極活用している。例えば、製造業にとって重要な課題である省電力化のために、電力消費量の多いコンプレッサーの電力消費量と空気圧のデータを収集し、節電効果が得られる最適な運転条件を検討している。「ものづくり力は、技術力と管理能力の掛け合わせ。IT を、営業、管理、生産の現場同士を融合するための道具として最大限に活用することが、新たな経営革新につながる可能性がある。」と同社総務部長の坂本栄造氏は語る。

同社が製造する小型精密部品



